

今だからこそ大切なもの

山梨県

山城剣友会

中学2年 野村将聖

「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義」

これは、武士道の七つの道徳規範である。この武士道の精神から生まれ、体現するものが剣道だと私は心得ている。

私は、今年で剣道を始めて5年になる。これまで道場の先生から剣道の技術だけでなく、心の持ち方、人としての在り方など様々な事を指導して頂いた。

しかし、毎月のように大会が開催され、そこで好成績を残したいという思いが強かった私は、気付かぬうちに技術面の修練ばかりに力が入っていたような気がする。

そんな私を根本から変える出来事が起きた。世界中を巻き込んだ新型コロナウイルスの出現だ。この厄介なウイルスは瞬く間に世界をパンデミックの渦に巻き込み、それまでの私達の生活を一変させた。体育館は閉鎖され、それによって稽古の場も失った。

感染拡大当初に抱いた「すぐに収束し、元の生活に戻るだろう」という私の希望的観測は脆くも崩れ、自粛期間は長期化した。

予定されていた大会は軒並み中止となり、目標を失った私は、喪失感で溢れ返った。

自室で寝転び、スマホをいじる時間ばかりが増え、口から出る言葉の大半は不満だった。

しかし、そんな私を変えてくれたのも、やはり、剣道だった。

コロナ禍での私達を案じ、掛けられた集合。その際に先生が掛けてくれた「今できることを各々が考え、実践しなさい。そこに必ず未来への答えがある」という言葉が切っ掛けだ。

私は考えた。今できる事は何だろう。これまで自分が軽んじてきた事は何だったろう。そこに自分自身が成長出来る何かが隠されているはずだ。そう考え、思い至ったのが、精神面の見直しだった。

そう思った私は、真っ先に剣道のルーツである武士道について調べてみることにした。長きに亘り日本人が重んじてきた武士道にこそ、その答えがあると考えたからだ。

宮本武蔵の五輪の書、新渡戸稲造の武士道など、原本では難し過ぎる物は分かりやすく解説された物を選び、何冊も読んだ。

そして、武士道が「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義」という七つの道徳規範から成っていることを知った。

義とは、武士道の中心となる良心の掟であり、正義のこと。

勇とは、義を貫くための実行力。

仁とは、思いやり、他者への憐れみの心。

礼とは、他者を尊重することから生まれる謙虚さ。

誠とは、言ったことを成すこと。

名誉とは、誠と共にある武士の精神的支柱で、自分に恥じない高潔な生き方を守ること。

忠義とは、武士にとって最高の名誉であり、何のために生きるかを表すもの。

これら一つ一つの徳は、単体ではどこか小難しいものであるかのように思える。しかし、よくよく考えてみれば、フェアプレイの精神、己が正しいと思った道を進む為に必要な勇気、弱き者への慈しみ、他者への敬意、嘘なき誠の行為など、どれも普段先生が指導してくれていた「剣道の理念」そのものであることに気がついたのだ。

それに気付いた私は、何気なくこれらをコロナ禍で働く人々に当てはめてみた。すると、感染脅威の最

前線で働いている医療従事者、早期収束に向けて頭を悩ませながら奔走する議員、未来への不安を抱える私達に寄り添う指導者達、様々な人の心の中に「武士道の精神」が垣間見えたのだ。皆が皆、剣道をしている訳ではないのに。

その時、私は先生が言った「未来への答え」が分かった気がした。

コロナによって失われたものは多い。しかし、同時にコロナによって得られるものだってあるのだ。一変した生活に未来を悲観し、卑屈になるのではなく、今こそ私達は自身の心の中にある「武士道の精神」を見直すべきだと。

やがて来る明るい未来のために。